

やぶやぶにゅうす

行・特級代理店(株)大蔵保険コンサルタント(有)やぶライフプランニング 〒167-0032 東京都杉並区天沼3丁目2-6 トヨタマビル2F TEL.03-3392-6765 FAX.03-3392-6793

代理店協会認定
特級代理店
秋号
保険のコンサルタント

富士火災海上保険(株)
三井住友海上火災保険(株)
東京海上日動火災保険(株)
あいおいニッセイ同和損害保険(株)
みらい生命保険(株)
オリックス生命保険(株)
損保ジャパン日本興亜(株)
東京海上日動あんしん生命(株)
AI損保(株) サクシード

一方生命保険は巨大な損害ではない限り地震・津波・噴火でも保険金では出ます。前の事故で日本大震災でも全ての方にお支払いしました。同じ事故でも保険の種目によって異なります！お客様には解りにくいと思います。こんなところからも約款の統一や保険の標準化を期待したいですものネ。

特に自動車保険は「軽微な事故では保険を使わない方がいい」とアドバイスされたことがあります。何のための保険か？契約者の皆様と共に改めて目的とリスクの優先順位を考える必要が出てきたと思います。

先に述べた長期火災保険の見直しでの問い合わせも多くなつてきました。さらに各社によって商品や補償、そして保険料も大きく変わつてきました。損害額を新価で支払うのか?原価償却された額で支払うか?改めて今のうちに、どの保険会社の商品を選択して長期の火災保険に加入すべきかのアドバイスが期待されているようです。

長期契約が出来る今のうちにご相談ください。お待ちしております。

御嶽山の噴火や大型台風の直撃。なんか地球が怒ったみたいですね。自然災害の巨大化です。同じく、済まされないと思いません。同じく、保険でも難しいのが約款です！御嶽山の噴火では損保の一般的な傷害保険は支払われない！？地震・津波・噴火は地域に巨大な被害を出しますので損害保険では原則免責で別に地震保険や天災担保特約を付ける必要があります。同じ自然灾害でも今回の台風での風災や水災も床上浸水や45cm以上で支払い対象になります。

地球が
怒って
いる？



火災保険の長期契約 加入見直しは今年中に！

**火災保険の長期契約が
出来なくなる！
ご契約は今年中に！**

弊社には事故の専門家がいます。

先月三年前に行つた岩手県
田老町と私の故郷の釜石を商
工會議所の事業で訪問しまし
た。

田老町の万里の長城と言わ
れたあの15mの堤防はまだ残
る姿をさらけ出したままで
した。町のかさ上げも進まず、
新しい建物は全く立つてお
りません。三年経つて、さ
すが瓦礫は無くなつたものの
シャベルカーで土盛りをして
いる作業員が目につくだけで
した。我が故郷釜石はさすが
にそれよりはましで、新しい
ホテルやシヨツピングセん
ターも出き少しづつ復旧して
いるようです。



三年ぶりに復活！ 父不二一



三年たっても仮設住宅での生活

被 大塚教授の相談シリーズ

「補償」ということ



大塚教授

「補償」ということ：世の中で「補償」という言葉をよく使います。ふつうこれは、損害が出たときにそれを補填（埋め合わせ）することを意味します。さて、「損害」は一回しか補償することができないのでしょうか？ 例えば、車に轢かれて大けがをしてしまったとき、その損害額（治療費、後遺障害、逸失利益、慰謝料等）は、加害者の負う「損害賠償義務」によって補償されるのがスジです。でもそうすると、加害者側から補償が行われてしまえば、被害者は一回すべてチャラになってしまった（もとに戻った）わけですから、他のところから「補償」を受けられないのでは？ 特に被害者が自分で加入していた保険はどうなるのでしょうか？

誰かの車が私の車に追突して、私が重傷を負ったとしましょう。かつて自動車保険では、搭乗者傷害条項というのが有名でした。これは、もともと損害の填補という性質を持ちません。簡単に言うと「生命保険と同じ」ですから、加害者の賠償責任保険からふんだくっても、さらにもらうことができました。ところが、自動車保険の「傷害条項」は、現在は「人身傷害補償条項」に集約されました。これは基本的に損害を填補するために「自分で入っている保険」ですから、もしこれが支払われる場合、加害者に対する賠償請求権を保険会社がもっていってしまいます（代位）。ダブルでもらうことにはできません！ ありや？ いつのまに変わったの？

大塚教授は早稲田大学院法務研究科の教授として活躍され、弊社のアドバイザーをお願いしております。お酒をいただくときなどに度々お会いする生徒です。

私が発起人で 26 年前に誕生した夏祭り「釜石よいさ」も今矢は若い人たちの手で復活して踊り子も 1,000 人を超えた。でも相変わらず町の中は、心地は空き地だらけ、そして人口減少は止まりません。四年ぶりを迎えて、仮設で生活される方の表情は疲れ切った様子でした。私たちでできる援助や支援はもう一度考えてみてはいかがでしょうか?

（編集長も来年また被災地石川に行きます。釜石よいさではね、よくよさいで慰問です。泊まる所をする。これボーナントです。買いたい物は得意中の得意の叔母様達でまた被災地を元気ばけます。）

忘れないでの日を、そ
て自分で出来る何か行動を起
こして頂けると幸いです。

